

新宮山彦ぐるーぷ第2043回

令和元年度世界遺産「吉野・大峰」地域連絡協議会

電源開発(株)橋本流通事業所と

植平工業(株)会長 植平修氏の表敬訪問

◇実施日；2019年9月12日(木) 晴

◇参加者・沖崎吉信、濱野兼吉、梶野照雄

(3名)

毎年9月のこの時期に開催される「吉野・大峰」連絡協議会に出席しているが、協議会は午後から始まるので、午前中に電源開発と植平工業の2ヶ所を訪問した。

電源開発橋本事業所 所長 川上真一氏

川上氏は本年4月に着任されたが、以前、橋本事業所に勤務されたことがあり、行仙宿にも数回登られたことがある。

◎春と秋の定期寄贈品のお礼

水、ガスボンベ、缶パン、くい丸を荷揚げしているが、必要なものがあれば申し出て下さい、とのことであった。

◎送電線工事でモノレールを使用することに対してお礼の言葉があった。

◎浦向道の鋼鉄製架橋に伴い、植平工業の製品を案内、架橋実績を紹介した。



電源開発(株)で



植平工業(株)本社工場



植平工業(株)

奈良県宇陀市の本社工場を訪問、テレビなどでよく見る町工場をイメージしていたが、到着してその広さにビックリ。工場の敷地だけで3000〜4000坪、周辺の山林も含めると約9000坪(三町歩)あるという。大型の建屋が5〜6棟あって、建坪は1000坪を越えている。工場の裏手は植平ブルーベリ―農園で、事務所には5〜6人の女性従業員がおられた大工場である。

◎8月11日の架橋工事が中止になったことのお詫びと、救命措置のお礼

◎架橋工事の日程調整(後日10月9日に決定)

◎工場内の見学

世界遺産「吉野・大峯」連絡協議会

場所…金峯山寺聚法殿（吉野山ビジター）

午後1時30分～午後4時

開会挨拶…総本山金峯山寺・五條良知官長

奈良県地域振興部文化資源活用課長 酒本健司氏

講演…奈良県立橿原考古学研究所 資料課長 卜部行弘氏

「大峰山と菅谷文則元所長」

協議事項…出席者紹介

保全・整備・活用等に関する情報交換

前回協議会の概要等について

世界文化遺産の保全に関する最近の動向

当ぐるーぷから、奥駈道北部の倒木処理、釈迦ヶ岳山頂の釈迦如来像基部石積の修復工事、平治宿の消火器事件、の3件を報告した。

（記：沖崎）



五鬼助さんと会場に向かう



蔵王堂



五條良知氏

東南院の五條さんより、山彦の倒木の処理は非常に有難い。100年続く修験の道だけに行者が安心して安全に通れることに對する労いの言葉をいただいた。

“世界遺産”の解釈は単なる奥駈道だけではなく、核になるコアゾーンと周辺部分のバッファゾーンに分かれ、両方を保全することが義務付けられている。五鬼助さんより、当然釈迦ヶ岳の釈迦像は世界遺産であるはずではないのか、奥駈道だけが世界遺産ではないのではないか等の提起を受けた。前鬼を含め、土地は小仲坊の土地であるとのことである。



卜部行弘氏



協議会参加者



山上ヶ岳の東南院の石垣の崩壊や天川村のゲリラ豪雨による奥駈道の崩壊など、文化庁への補助制度の状況も問われたが、奈良県からは文化庁の予算の枠内での処理と言うことになるので、具体的な数字の回答は得られなかった。

森林管理署から国有林の範囲であれば林道を含めて対処していき

たいと報告を受けた。

環境省は吉野町で腹の赤いカマキリ（外来種）が見つかり、駆除をしている。広がる恐れもあるので、見つけたら駆除をとの要請を受けた。

各町村の報告の中で、黒滝村の世界遺産担当が、教育委員会から企画調整課に代わった。天川村からは新規採用された職員がすぐ世界遺産の担当になり、皆さんに教えを乞いながら学習し、しっかり世界遺産を地域の遺産として根付かしていきたいとの表明を受けた。

奈良県より世界遺産の今後の取り組みとして、景観を重視し、今後巨大メガソーラーや風力発電等の設置に対する規制を広げて対処していかなければならない課題であるとのこと。

自治体職員の欠席が多かった。世界遺産の保全活動の基本は市町村である。もちろん財政的な部分を含め大変なことは理解できるが、世界遺産に対する認識が低いのではないか、とも私には思われた。奥駈道や歴史的建造物を次の世代、またその次の世代へと何世代も繋げていくことの重要性をもっと理解していただきたいと思う。

最後に「山彦」の活動に対する理解や感謝のお言葉を頂き、改めてしっかりと今後も力を入れて活動せねば、と気持ちを引き締めた連絡協議会であった。

（記・濱野）

行動タイム

09：20 電源開発(株)橋本流通事業所→11：30 植平工業(株)→11：40 吉野山ビジターセンター→16：00